

「耐震等級3」相当で建てる、これからの家づくり……日本列島は地震列島

世界で起こるマグニチュード6以上の巨大地震は5回に1回が日本で起きています。1995年には、いまでも私たちの記憶に深く残る、阪神・淡路大震災が起き、多くのビルや住宅、高速道路までもが倒れ、6,400人以上が死亡、43,000人以上の負傷者が出ました。また、最近では能登半島地震や新潟県中越沖地震、東日本大震災など、次々と大きな地震が発生しています。そして、首都直下型・南海トラフ地震などが予測されています



地震に強いSS構造体バリュー、3つの安心

建築基準法の1.5倍の耐震性



消防署や警察など防災の拠点となる建物がこの基準に相当します

SSバリューが設計の基準にしている「耐震等級3」相当は、国土交通省の住宅性能表示制度・耐震等級における最高等級であり、阪神・淡路大震災相当の地震の1.5倍の力に対しても倒壊しないレベルを表します。災害時の救済拠点となる消防署や防災本部、警察署などに求められる耐震安全性と同じ、最高基準です。

第三者の(株)LIXILが構造検査を実施



建築会社や工務店が設計した図面を(株)LIXILのCADセンターにおいて、1棟ごとに「耐震等級3」相当を設計検査。お客様には設計検査報告書「わが家のプロフィール」をお渡しします。また、工事期間中に住宅瑕疵担保責任保険法人によって、計2回の現場検査を実施。設計図どおりの施工精度を確認いたします。

万が一の時にも安心な耐震補償付



SSバリューで建築した家が、万が一、地震の揺れにより全壊した場合、最高2,000万円まで建替え費用の一部を負担します。

※耐震補償付き「スーパーstrong構造体バリュー」の詳細内容は、『耐震補償付き「スーパーstrong構造体バリュー」約款』をご確認ください。(株)LIXILのホームページをご覧ください。

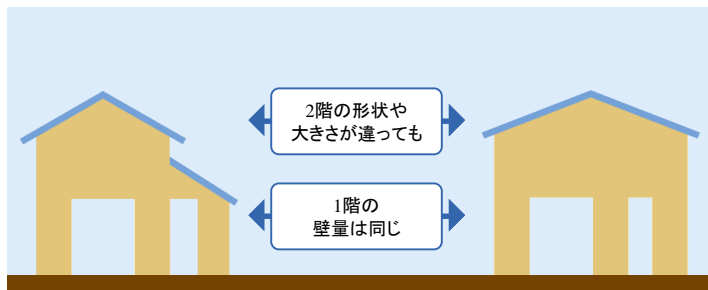
家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、補強を実施

耐震等級3相当の家づくりでは、壁の量・床の補強・基礎配筋等の仕様において、家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、しっかりした補強を行うため、開放的な空間であっても安心できる、地震に強い家を実現できます。

SSバリュー「耐震等級3」相当の強さの理由

壁が強い

建築基準法

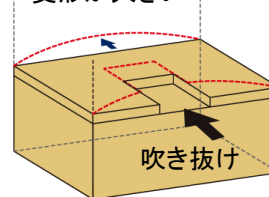


2階の形状や大きさにかかわらず1階の壁の量は一定※です。
※1階の広さにより必要な壁の量を算出します(見付面積で算出する場合があります)。

床が強い

吹き抜けなどで部分的に床がないと弱くなる

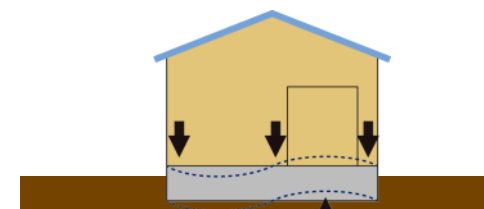
変形が大きい



床の形状や大きさにかかわらず補強方法は一定※です。
※隅角に火打ち材(補強材)を使用します。

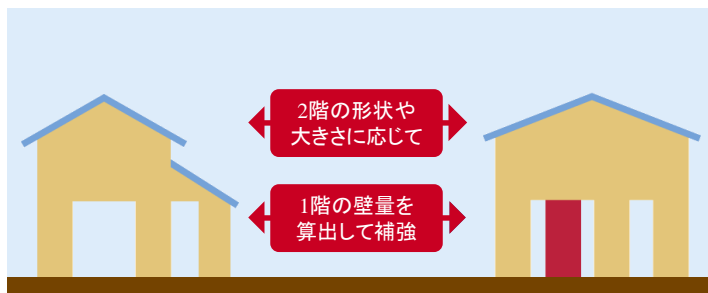
基礎が強い

建物の隅角部や開口部などの柱間隔が大きい部分が弱くなる



地盤の強さに応じて基礎形式を選択するだけで、基礎配筋等の仕様は一定です。

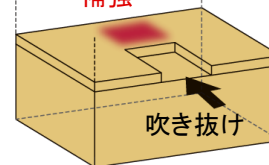
SSバリュー



建物の形や大きさに応じて必要な壁の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

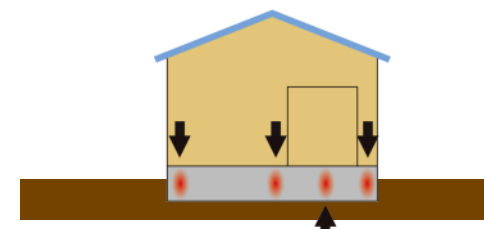
変形しにくい

弱い部分を補強



形状や大きさに応じて、必要な床の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

弱い部分を補強



建物の形状や大きさに応じて基礎を配置し、強度不足の場合は配筋の補強を行うため、地震に強い家といえます。

最も地震に強い「耐震等級3」で設計

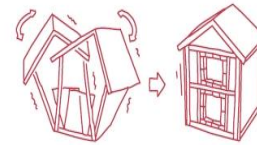
地震大国日本では、地震への対策は重要です。ポイントは地盤・基礎・建物のバランスです

※お客様のご希望プランにより耐震等級3が取れない場合があります。その場合は、事前にご相談申し上げます。

耐震等級3はなぜ地震に強いのか？

住宅の耐震性を高めるポイントは、**壁・床・基礎**の強化です。建築基準法では、壁の量・床の補強・基礎配筋等の仕様において、家の形状や大きさにかわらず一定の基準を満たせばよいという項目が多く、きめ細やかな補強策がとられていません

それに対し「耐震等級3」の家は、家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、しっかりとした補強を行うため、開放的な空間で会っても安心できる地震に強い家を実現できます。



同じ地域でも地震の揺れは違う

表層地盤の違いによって揺れの大きさが違います。被害を最小限に留める最善策として「耐震等級3」で建築。

耐震性の判断

適切な判断を

耐震性は、住宅品質確保促進法内の、住宅性能表示制度で決められています。梁が大きい、基礎が強いただけでは意味がありません

耐震性は3つのランク

耐震等級3とは、消防署や警察署等の防災拠点となる「倒れてはいけない建物」がこの基準に相当します。

壁が強い

2階の形状や大きさが違っても1階の壁量は一定

2階の形状や大きさに応じて1階の壁量を算出し補強

床が強い

吹き抜けなどで部分的に床がなくなると弱くなる

変形しにくい

基礎が強い

地盤の強さに応じて基礎形式を選択するだけで基礎配筋等の仕様は一定

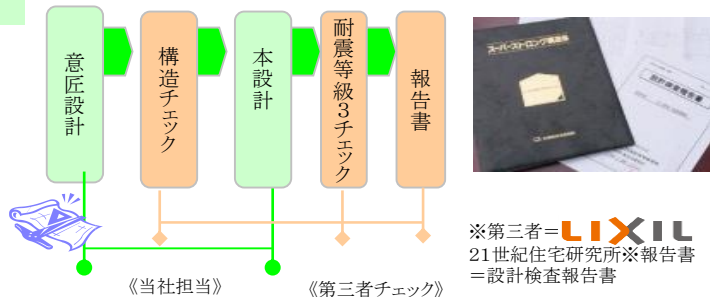
建物の形状や大きさに応じて基礎配筋し、強度不足の場合は配筋の補強を行います

チェックが違うから強い

チェック項目	基準法	耐震等級3
配置バランス	○	○
各階壁量	○	○
基礎の強さ	×	○
接合部強度	×	○
床面強度	×	○
横架材強度	×	○

※ ×=規定がない ○=法で規定あり

第三者の構造チェックで確かな品質を提供



万一の時に10年間の「耐震補償付」

耐震補償付 もしもの時に、ご家族と財産を守る安心の家作りの為に、第三者のLIXILが最大2000万円の補償を付与します。

【補償金額】建物本体価格の1/2
※照明、屋外給排水、エアコン等の工事を除外

【補償料金】メーカー補償で安心
第三者がしっかりとチェックした証で補償

建築基準法の1.5倍の耐震性

かけがえのない「家族」と大切な「財産」を地震から守ります。

TOSTEM LIXIL